2020年(令和2年)9月4日(金曜日)　讀賣新聞

障害持つ2人 友情と葛藤

今村監督作「友達やめた。」

国際映画祭できょう上映

生まれつき耳が聞こえない映画監督今村彩子さん(41)(名古屋市緑区)が、発達障害の友人「まあちゃん」(46)との交流や心の葛藤を描いたドキュメンタリー映画「友達やめた。」を制作した。3日開幕した「あいち国際女性映画祭」の招待作品として、名古屋市東区のウィルあいちで4日、上映される。

(倉橋章)

今村さんは20歳の時からドキュメンタリー映画を撮り始め、東日本大震災で被災したろう者の暮らしを長期取材した作品など、これまで30本以上の作品を制作している。

まあちゃんと出会ったのは2017年夏。自作の上映会で意気投合し、食事や旅行に行く間柄になった。

今回の制作のきっかけは18年冬の出来事だった。名古屋市内での映画祭に招待された折、まあちゃんに手話通訳を依頼。時間通りにまあちゃんが来たところ、今村さんたちの打ち合わせがすでに始まっていたため、まあちゃんが腹を立て、その後、無料通信アプリ「LINE」でけんかになったという。

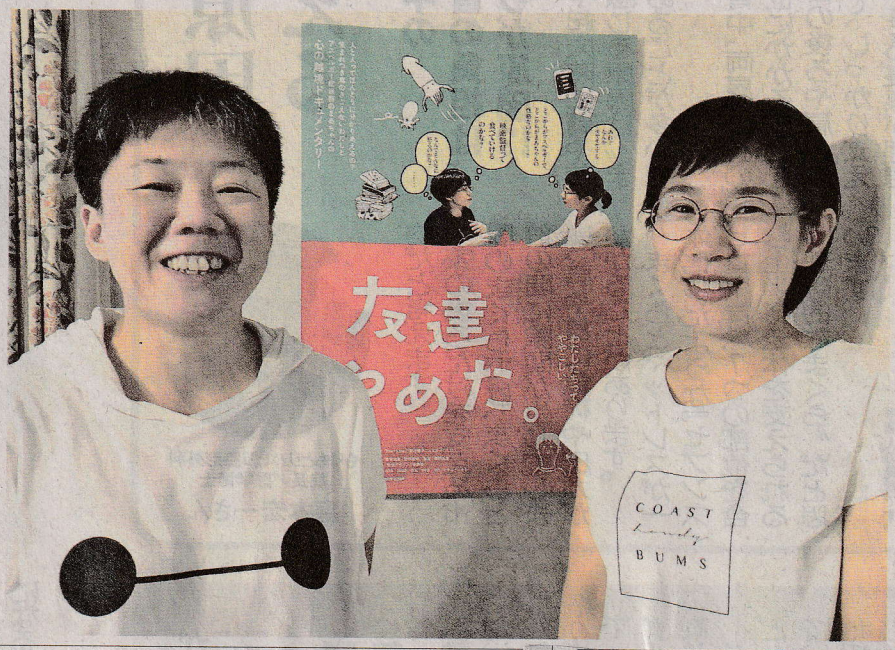
「お互い障害もあり、わかり合えると思っていたが、映画祭での出来事などいくつか理解できないこともあり、葛藤していた」。近いと思っていた2人の姿、距離感を映像化し、人は本当にわかり合えるのか、友達とは何なのか――という問題に向かい合った。

映画では、一緒に行った台湾や長野県での旅行や食事での様子、手話によるけんかなど2人の等身大の姿を描いている。今村さんがつづる日記には「友達やめる」という言葉も出てくるが、最後には「でも、友達」と締めくくっている。

今村さんは「日記に『友達やめる』と書いたことで気持ちが軽くなった。いい友達でいなければという思いはなくなり、撮影を通してまあちゃんといい距離感を築くことができた」と振り返る。

まあちゃんは「自分自身は変えられないので、撮影することで彩ちゃんの心の葛藤が解決すればと思った」と話す。

84分。映画祭での上映は4日午後1時半。26日からは名古屋市中村区の「シネマスコーレ」でも公開されるほか、全国で順次上映される。



映画を制作した今村さん(右)と出演したまあちゃん(名古屋市で)